
国際交流シンポジウム IS02

日本薬学会・韓国薬学会合同シンポジウム：

物理化学的手法により明かされる、疾病関連タンパク質の機能メカニズム

PSJ-PSK Joint Symposium:

Functional mechanisms of disease-related proteins, revealed by physicochemical analyses

大澤 匡範¹

¹慶應大薬

疾病の原因となるタンパク質の機能メカニズム、あるいは、機能不全となるメカニズムが、立体構造の観点より解明されれば、疾病の理解が深まるだけでなく、リガンドによるタンパク質の機能制御を狙った合理的創薬が可能となる。近年、X線結晶構造解析やクライオ電子顕微鏡解析により、多くのタンパク質の高分解能な snapshot が報告されているが、それに加えて、タンパク質の構造変化や運動性の変化、凝集や繊維形成などを定量的に捉える各種分光法などの物理化学的手法は、タンパク質の機能解析には欠かせないものである。

今回、日韓薬学会の研究者を4名お招きし、疾病関連タンパク質の機能メカニズムを解明するために、いかにしてNMRなどの分光法を活用されたのかをご紹介いただく。両薬学会の発展に寄与すべく、議論を深めたい。